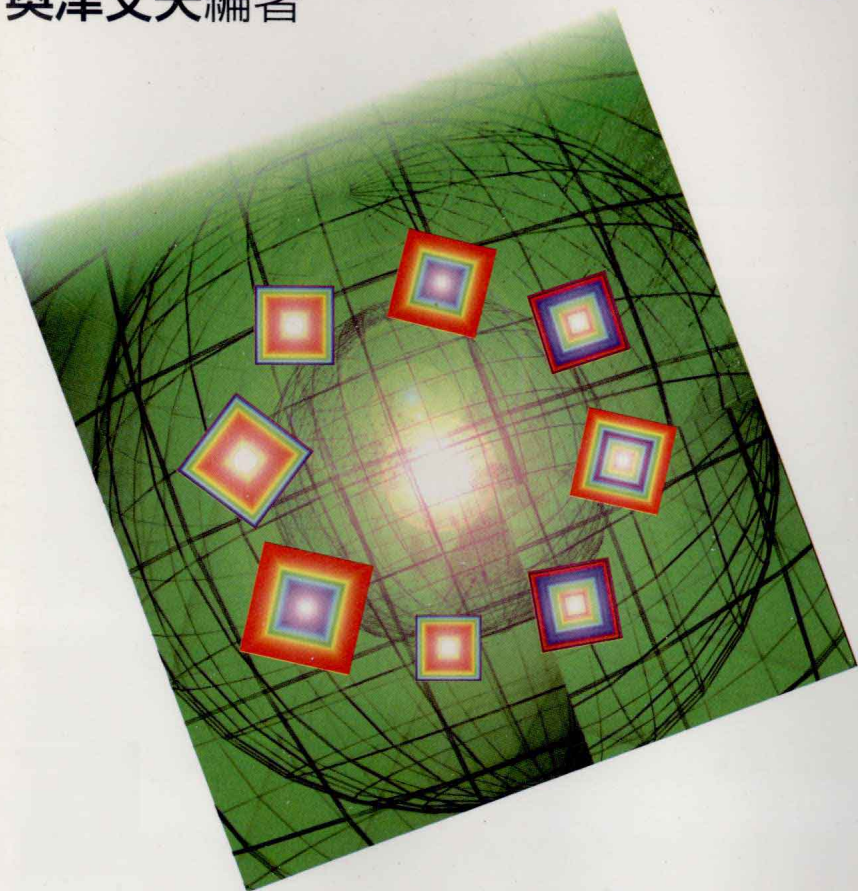
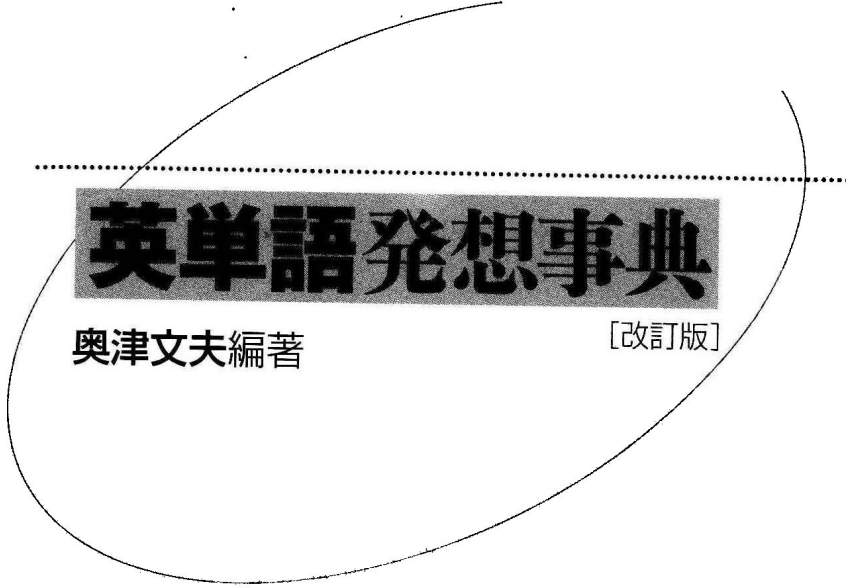


英単語発想事典

奥津文夫編著

[改訂版]





英単語発想事典

奥津文夫編著

[改訂版]

三修社

編著者

奥津文夫 (おくつ ふみお) 和洋女子大学教授

執筆者

村田 年 (むらた みのる) 千葉大学教授

清川英男 (きよかわ ひでお) 和洋女子大学教授

池田和夫 (いけだ かずお) 千葉県立船橋豊富高等学校教諭

英単語発想事典[改訂版]

2001年1月10日 第1版発行

編著者 奥津文夫

発行者 前田完治

発行所 株式会社三修社

〒110-0004 東京都台東区下谷 1-5-34

電話 営業 03-3842-1711

編集 03-3842-1631

<http://www.sanshusha.co.jp/>

振替口座 00190-9-72758

印刷所 壮光舎印刷株式会社

© 2001 : printed in Japan

ISBN4-384-00545-8 C1082

図 日本複写権センター委託出版物

本書の全部または一部を無断で複写（コピー）することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター（TEL 03-3401-2382）にご連絡ください。

He grows hair on his upper lip. という英文を「彼は上くちびるに毛を生やしている」と訳したら、この男の顔はとても気持ちの悪いものになってしまう。英語の lip は、日本語の「くちびる」とその周辺、特に鼻の下を含むのである。

つまり、英語の lip と日本語の「くちびる」には語義にズレがあることを知らねばならない。head と「頭」、water と「水」、park と「公園」、on と「上」などいずれも日英両語の意味に相当のズレがある。言葉というのは森羅万象を切り取る道具であり、その切り取ったものに対する記号であるが、その切り取り方が国によって異なるということである。

brother に当たる日本語の単語は存在しない。長幼の序を重んじるタテ社会の日本では、「兄」と「弟」は明確に区別する必要があるが、欧米では兄も弟もふつう区別せず brother だけですます。言語は、それを話す国民の文化を背負っているものであり、日英両語を比較研究することは、それぞれの国民の発想や文化を知る上でも極めて有効であり、同時にその言語の正しい理解を助け、「言葉」に対して興味を抱く大きな要因となるものである。

語法面でも、日英両語の比較という観点から語句の使い方を学ぶのが効果的である。「明日は雨は降らないと思う」は *I think it will not rain tomorrow. とはふつう言わないし、「私にはそれをするのは不可能です」を *I am impossible to do it. と訳してはいけない。また go skating on the lake 「湖へスケートに行く」、order books from England 「英国へ本を注文する」、a key to my room 「私の部屋の鍵」などの表現の場合にも日本語に邪魔されて前置詞を誤りやすい。

形容詞と名詞の結びつきや動詞と目的語の関係などにも誤り易いものが多い。「高い鼻」は *a high nose でなく a long nose であり、「スープを飲む」はふつう eat soup, 「電話を借りる」は use a telephone である。

現代では日本語の中にカタカナ英語が非常にたくさん入り込んでいる。

英語の語彙をふやすのにこれらを大いに利用すべきである。ただ「ココア」cocoa [kókou] や「ラムネ」lemonade [lèmonéid] などのように発音が相当変わっているものや「カンニング」—cunning (ずるい), 「フェミニスト」—feminist (男女同権論者) などのように元の意味と異なるものなど様々な例があるから注意が必要であるし、またそのような事実を知ることにも極めて興味深いものである。

以上述べたように日英両語の比較という観点に立ち、本書では、英単語の意味、用法、文化的背景などを日本人学習者にとって有益、かつ興味深い様々な角度から解説した。カタカナ英語、音感語、意味の構造など、ふつつ参考書ではあまり扱わない角度からも考察を行なっている。

また付録として、英語や英米文化を学ぶ上での常識とも言えるような、英単語に関する知識をテスト形式で整理してみた。

本書は、英単語を効果的にかつ楽しみながら学習し、記憶したいと考えている高校生・大学生諸君にも、またすでに知っている英単語についての再発見をし、ことばの持つロマンと魅力を知りたいと考える社会人にとっても、さらに中学・高校の英語の先生方の教授用資料としても大いに役立つものと信じる。

2000年12月

編著者

目 次

第1章 基本語の正しい意味・用法と文化的背景.....	1
1. 1. 衣食住	3
wear 3/ apple 4/ boil 5/	
cook 5/ corn 6/ drug 7/	
drink 8/ fry 8/ lemon 9/	
spinach 9/ tomato 10/ water 11/	
bathroom 11/ villa 12	
1. 2. 身 体	14
breast 14/ chin 14/ finger 15/	
hand 16/ head 17/ hip 18/	
lap 18/ limb 20/ lip 20	
1. 3. 人間関係・職業	21
brother 21/ boy 21/ citizen 22/	
critic 22/ foreigner 23/ hostess 23/	
housewife 24/ nurse 24/ secretary 24/	
society 25/ teacher 26	
1. 4. 動物・植物	27
carp 27/ cow 27/ dog 28/	
donkey 29/ fish 29/ fox 30/	
grasshopper 32/ insect 32/ sheep 33/	
daisy 34	
1. 5. 色と数字	35
blue 35/ green 36/ yellow 37/	
nine 37/ thirteen 38	
1. 6. 交通・地理	39
car 39/ downtown 39/ hometown 40/	
local 40/ park 41/ station 41/	
street 42/ suburb 43/ train 43/	

travel 44

1. 7. 自然・天候46

dark 46/ hill 46/ horizon 47/

rainbow 47/ season 47/ shower 49/

wind 49

1. 8. その他50

break 50/ climb 51/ come 51/

contract 51/ expect 52/ happy 53/

lie 53/ morning 54/ no 54/

on 55/ privacy 56/ proud 57/

pub 58/ queue 58/ weekend 60

第2章 主な類語の使いわけ61

2. 1. 名詞63

遊び 63/機会 64/選択 65/群れ 66/目的 67/

例 68

2. 2. 形容詞・副詞70

あいまいな 70/大きい 70/賢い 71/寒い 72/

(値段が)高い 73/たぶん 74/普通の 75/やせた 76

2. 3. 動詞78

延期する 78/変える 78/議論する 79/耐える 80/

なおす 81/望む(～したい) 82/結ぶ 83

第3章 カタカナ英語の活用85

3. 1. 英語をそのままカタカナにした言葉87

アクセントが異なるもの 87/発音がかなり変化したもの

88/英語の方が意味範囲の広いもの 90/日本語の方が意味範囲の広いもの 91

3. 2. 日本人が作ったカタカナ英語92

英語の一部を省略したもの 92/英語にない語を加えたもの

94/半分は英語, 半分は和製英語から成るもの 94/元の英語と異なる意味を持つもの 95/日本人が合成した

和製英語 97

第4章	音から覚える語(音感語).....	99
4. 1.	語頭の音	101
	sp-, spr- 101/st, str- 101/scr- 102/squ- 102/ tw- 102/shr-, thr- 102/gl- 103/fl- 103/dr- 103/sl- 104/m- 104/sn- 104/wh- 105/h- 105	
4. 2.	語尾の音	106
	-er 106/-p 106/-sh 106/-ble 107/-ch 107	
4. 3.	動物の鳴き声	108
第5章	語と語の結びつき	111
5. 1.	形容詞+名詞	113
	a bright boy 113/ a busy street 113/ dark eyes 113/ dense fog 114/ an easy coat 114/ fake money 115/ a gentle slope 115/ a handsome woman 116/ a happy accident 116/a healthy exercise 117/ a high price 117/ hot mustard 118/ a keen interest 118/ a large garden 119/ a large population 119/a long [large] nose 119/ a low voice 120/ a poor student 120/ rich food 120/ a serious disease 121/ strong coffee 121/ a tight schedule 122	
5. 2.	動詞 [他動詞]+名詞 [目的語]	123
	commit suicide 123/ do harm 123/ draw a circle 124/ drive a person home 124/ give a test 125/ have a good time 125/ lead the world 125/ make a decision 126/ practice sports 126/ quit the club 127/ Save 20% 127/ serve five people 127/ shake hands 128/ spread butter 128/ take a shower 128/ tell the difference 129/	

	tell the way 129/	use a telephone 130/
	want experience 130/	wash oneself 130
5. 3.	日英で語順の違い表現, 同じ表現	132
	food, clothing and shelter	132
第6章	注意すべき語法	137
6. 1.	名詞	139
	a bad sailor 139/ have a try 140/	
	a piece of baggage 142/ scissors, bowels 143	
6. 2.	代名詞	146
	that, those, it, one, ones 146/ what 147	
6. 3.	動詞	149
	kiss her on the cheek 149/ rob a bank 150/	
	remember 152/ think, suppose, believe 153/	
	drown 154/ be killed in the war 156/	
	help oneself 157/ have one's hair cut 158/	
	discuss a problem 160/ marry a pretty girl 160/	
	enter a room, enter into a contract 162	
6. 4.	形容詞	165
	*I am convenient today. は誤り 165/	
	It is fortunate... はよいが It is happy... はダメ 166	
6. 5.	副詞	168
	recently と nowadays の使いわけ 168/	
	if it is fine tomorrow 169/	
	happily 「幸福に」と「幸いにも」 170/	
6. 6.	前置詞	172
	begin at nine 172/ by, until, to の使いわけ 173/	
	go swimming in the river 174/ a key to the room 175	
第7章	意味の構造(語の基本的意味を知る)	177
7. 1.	意味変化の2つの原理	179
7. 2.	単語の意味の体系化	185

名詞	185	動詞	189	形容詞・副詞	193	前置詞	197
----	-----	----	-----	--------	-----	-----	-----

《付録》

英単語常識テスト	201
----------------	-----

①連想(人間) ②連想(草花) ③直喩(生物)

④慣用句(色) ⑤ことわざ(飲食物) ⑥語順

⑦関連語 ⑧婉曲語 ⑨州のニックネーム

⑩人のニックネーム ⑪英語と米語 ⑫語の使

用頻度 ⑬カタカナ英語 ⑭短縮語 ⑮頭字語

⑯語法

解 答	213
-----------	-----

索 引	217
-----------	-----

第1章

基本語の正しい意味・ 用法と文化的背景

多くの英単語を覚えていても、本当にその語を理解していないことが多い。例えば water は、ほとんどの日本人が「水」と思っているが、water と「水」とは違うのである。water には「水」も「湯」も含まれている。また hip は「しり」とふつつ訳しているが、hip と「しり」が指す部分は異なっており、しかも英米人はふつつ hips と複数形で用いる。

grasshopper はふつつ「バッタ」と訳しているが、この語は実際には「バッタ」「イナゴ」「キリギリス」の総称である。稲作農業が中心であった日本では、稲に害を与える「イナゴ」と草原に住むバッタやキリギリスは区別する必要があったわけである。

carp は日本語では「鯉」であるが、「鯉」は「鯉のぼり」などに使われるように、「雄々しさ」や「元気」を連想させる魚である。また高価な魚という連想を持つ。しかし英米では carp は、濁った水たまりに住むところから「うす汚ない魚」として、また、目立つうろこなどから「みにくい魚」としての連想が強く、食用に供されることはあまりない。

以上のように英語の単語とその日本語訳の間には意味のズレがあることが多いし、また各単語が持っている文化的背景や連想などには、日英両語で相当の違いがある場合も多い。そのような相違を知ることが、英語の単語の正しい理解に不可欠のことであり、また英語学習を極めて楽しいものにしてくれるのである。

この章では、日本人が特に誤りやすい語や、興味深い文化的背景を持つ語を取り上げて解説し、各単語にまつわる楽しい話なども適宜紹介した。

1.1. 衣食住

wear 「着ている」か「はいている」か?

●日本語では上半身につけるものは「着る」、下半身につけるものは「はく」と言い、その他、頭、顔、手などにつけるものにはまた別の動詞を使うが、英語の場合には、帽子でも上衣でもズボンでも装飾品でも、身につけるものすべてに wear を使う。

wear	a hat	帽子を <u>かぶっている</u>
	a coat	上着を <u>着ている</u>
	trousers	ズボンを <u>はいている</u>
	glasses	めがねを <u>かけている</u>
	contact lenses	コンタクトレンズを <u>している</u>
	gloves	手袋を <u>はめている</u>
	a tie	ネクタイを <u>しめている</u>

さらに、香水やひげ、表情などにも wear が使える。

wear	perfume	香水を <u>つけている</u>
	a mustache	口ひげを <u>生やしている</u>
	a joyful face	楽しい顔を <u>している</u>
	a smile	えみを <u>浮かべている</u>

●wear はこのように「(身につけている)状態」や「習慣」に使い、「動作」には put on (身につける) や try on (身につけてみる) を使う。また「状態」には have~on を使うこともできる。

●日本語では、身につけるものによって動詞が異なるということは、古来日本人が衣類や服装に深い関心を持ってきたことを示していよう。「衣食

住」のように日本では衣が最初にくるが、英語では food, clothing and shelter のような順になる。もっとも日英どちらの表現の場合にも語呂の良さが語順を決める大きな要因ともなっている。四季の変化に富み、「衣替え」などといった日本独特の言葉もある。また日本人は特に「よそゆき」(外出用)と「ふだん着」を区別する国民である。『菊と刀』の名著で知られるアメリカの文化人類学者 Ruth Benedict 女史(1887~1948)は日本文化を shame culture (恥の文化)と呼んだが、外に出る時には他人に笑われないように無理をしても良い衣服を着ようとする日本人も多い。日本人はまた、下半身を不浄とする潔癖感のようなものを持っていた。これは日本人が sex (性行為)や excretion (排泄行為)を恥ずかしいこと、隠すべきことと考えるからである。だから、上着とズボン、帽子と靴下を同じ動詞を使って身につけるなどといったことは考えられないことでもあった。

apple 「リンゴ」 何を連想するか?

- リンゴは英米でもポピュラーな果物である。生で皮のままかじって食べることが多いが、baked apple (焼きリンゴ)もある。
- リンゴというと、エデンの園で Adam と Eve が食べた forbidden fruit (禁断の木の実)という言葉が連想される。また「のどぼとけ」のことを英語では Adam's apple と言うが、これは神様から食べてはいけないと言われていた木の実を、ヘビの形をした Satan (悪魔)にそそのかされて、まず Eve が食べて、次に Adam が食べようとした時に神様が現われたので、あわてて飲み込もうとしたため、そのかけらがのどに引っかかったので、現在でも男性ののどには出っぱった部分があるのだと信じられている。
- 「ごまをする人」のことを apple-polisher (リンゴを磨く人)と言い、リンゴが健康に良いところから An apple a day keeps the doctor away. (1日リンゴ1個は医者遠ざける)ということわざもある。
- アメリカ人の好物に apple pie がある。as American as apple pie 「きわめてアメリカ的な」という慣用句もある。以前 GM (General Mo-

tors) というアメリカの自動車会社が、シボレー (Chevrolet) という大衆車の宣伝のために “baseball, hot dog, apple pie and Chevrolet” というテレビコマーシャルを流したが、野球やホットドッグと並んで、アップルパイもアメリカ人が最も好むもののなのである。この他 cider (リンゴ酒——日本のサイダーとは異なる), apple brandy, applesauce など、英米ではリンゴは加工して食することが多い。なお the (Big) Apple と言えばニューヨーク市のことである。

●リンゴから連想する色は日本では「赤」であるが、西洋では料理用の青りんごから green のイメージも強く、apple green という表現もある。

boil 「ゆでる」か「煮る」か?

●この語は「(液体を)沸騰させる」ことを意味し、その液体の中に物が入っていてもいなくてもよい。日本語では、中に何も入っていない時には「(湯を)わかす」となり、何か入っている時には、その物の種類によって「ゆでる」とか「煮る」とかいったさまざまな表現になるのである。

米や野菜が食生活の中心であった日本では boil の仕方が大切なのであり、肉食中心の欧米では次頁に述べるように、肉の焼き方が重要になる。

boil	water	湯を <u>わかす</u>
	eggs	タマゴを <u>ゆでる</u>
	vegetables	野菜を <u>煮る</u>
	rice	ご飯を <u>たく</u>
	clothes	衣類を <u>煮沸(消毒)する</u>

cook 「(火を使って)料理する」

●日本語の「料理する」と意味範囲が異なり、英語の cook は火を使って料理する時にのみ使う。次に主な cook の仕方をあげよう。

- bake** 「(油を使わずにオーブンなどでパン, 菓子, 豆類などを)焼く」
toast 「(パンなどをこんがり)焼く」
roast 「(肉などをオーブンまたは串に刺してじか火で)焼く」
broil 「(肉・魚などを焼き網などで)焼く」(《英》では grill を多く用いる)
fry 「(油で)揚げる, いためる」
boil 「煮る, ゆでる, たく」
poach 「(卵, 魚, 果物などを)熱湯に落として形を崩さないようにゆでる」
stew 「とろ火で煮る, シチューにする」

●食物をすぐ料理できるようにしたり, サラダ, 魚などにドレッシングやソースをかけて仕上げたりすることを **dress** と言う。cf. **dress a salad** 「サラダにドレッシングをかける」, **dress a chicken** 「鶏を(羽毛, 頭, 足, 臓物などを除いて)料理できるように下ごしらえをする」。また朝食, 夕食などには **prepare breakfast [dinner]** がよく使われる。

corn 「トウモロコシ」か「小麦」か?

- corn** はアメリカ, カナダ, オーストラリアでは「トウモロコシ」を指す。トウモロコシはアメリカの代表的農産物(穀物)である。
 ●イギリスでは **wheat** (小麦), **barley** (大麦), **oat** (カラス麦), **rye** (ライ麦), **maize** (トウモロコシ) を総称して **corn** (穀物=grain) と言うが, 馬の飼料の **corn** と言えば **oat** を指し, 人間の食料としての **corn** と言えば **wheat** を指す。またスコットランドでは **corn** は **oat** を意味する。なおスコットランド人に対して偏見を持っていたと一般に言われている **Dr. Johnson** (1709~84) の作った辞書の中の次の定義は有名である。

OAT—A grain, which in England is generally given to horses, but in Scotland supports the people. (カラス麦——イングランドで

はふつう馬に与えられるが、スコットランドでは人間の食料になる穀物)
 ●popcorn (ポップコーン) はアメリカ人の好きな食べ物であり、日本で焼きトウモロコシとして食べるのは sweet corn という種類である。

●アメリカ人は Scotch whisky に対抗して bourbon (whiskey) というのを造ったが、これはトウモロコシを原料の一部に使った強い酒で、Kentucky 州の Bourbon county (バーボン郡) で最初造られたのでこの名前がついたのである。

drug 「薬」の意味にはふつう使わない

●この語は特に「麻薬」の意味を持つので注意が必要である。ふつうの「薬」の意味では medicine を使うほうがよい。cf. He is on drugs. 「彼は麻薬をやっている」, the drug habit 「麻薬の常習癖」。

●drug は総称的な語で、medicine は主に「内服薬」を指し、「丸薬」には pills, 「錠剤」には tablets, 「散薬」には powders, 「水薬」には liquids, 「塗り薬」には ointments をふつう用いる。

●drugstore というのは「薬屋」ではない。薬も売っているが、その他、化粧品、文房具、タバコ、日用雑貨、新聞雑誌、菓子類などさまざまな物を売っており、軽い食事や飲物もとれる設備もある店であり、日本の各地にあるセブン-イレブンのような店に、軽食のとれるカウンターがついたものを想像すればよい。supermarket と異なるところは、生鮮食料品や野菜は売っていないことと、prescription section (処方薬品調剤コーナー) があることである。

●薬だけ売っている「薬屋(薬局)」は pharmacy と言い、イギリスでは chemist's shop である。ただし医薬分業の徹底しているアメリカでは、多くの薬は医者 prescription (処方箋) がなければ売ってくれない。処方箋がなくても買える薬は、アスピリン、ビタミン剤、せきどめドロップ程度のものである。